

## 生体吸収性スキャフォールドの描出の試み

<sup>1</sup>湘南鎌倉総合病院清水 利光<sup>1</sup>

目的 Abbott より出されている生体吸収性スキャフォールド (Bioresorbable Vascular Scaffold: 以下BVS) はSTENT 部分に植物由来のポリ乳酸を使用し薬剤としてエベロリムスを使用している。STENT 部の主体がポリ乳酸であるため放射線の画像に写りにくいいため、マーカーを頼りにSTENT の位置を知るようになっている。今回、BVS 留置後のフォローアップをCT にて行うためCT にてBVS を表示できるかを試みる。方法 Nominal で広げたBVS をCT にて撮影し、WorkStation にてVR を作成しストラットを確認できるかを確かめた。また、MPR にてBVS を確認できるかを試みた。撮影条件は、管電圧を80・100・120・135kv と変化させ管電流は小焦点である限界の270mA とした。また、各データをオリジナルと当院で心臓検査時に使用している逐次近似のStandardの2つで再構成を行った。結果 BVS は各撮影条件の画像でもVRはストラットを表示することができなかった。MPR はすべての撮影条件で表示可能であった。考察 BVS をMPR で表示可能であったのはWW・WL 共に実際の臨床では使用することのない値であった。今回は、MPR で表示できたが検査時には造影剤を使用しているため、BVS を表示するのは困難と思われる。よって、今後のフォローアップは血管内腔の評価のみでストラットの評価はできないと思われる。結論 BVS はCT で表示することはできない。